

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300076
法人名	株式会社 穂波
事業所名	グループホーム 柿の里
所在地	愛媛県宇和島市柿原甲138番地 1
自己評価作成日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年3月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

柿畑のある静かな住宅地にあり、窓からは自然の景色を見ながら、のんびりと暮らしています。利用者さんの出来る事や、役割に目を向けながら手仕事をしてもらったり畑仕事の手伝いや収穫を楽しみにしています。家庭的な雰囲気や大事にし、安心して過ごせるホームを目ざしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 玄関脇は、スリッパのまま出て過ごせるようになっており、気候の良い時期には、外のベンチ等で過ごされることも多い。庭のまくわ瓜の棚の下に椅子とテーブルを置いて、時々「青空喫茶」を行なっておられ、個々がお好きな飲み物を選んで楽しめるよう取り組まれている。
- 「写経したものを寺に納めたい」と希望される利用者や「自宅の様子が気なる」方には、職員が同行されている。最近では、百人一首・花札・かるた・四字熟語・ことわざ等をゲームにして採り入れておられ、昔を懐かしむような会話へとつながっていくようだ。お正月には、おせち料理を食べて、初詣に行き、カルタを楽しむ等して過ごされた。
- 毎朝、仏前にお茶と水・ご飯を供える方も、なるべくご自分でできるよう見守っておられる。

### V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I.理念に基づく運営

### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム柿の里

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 赤松 秀美

評価完了日 25年 3月 19日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関に理念を掲示し、介護に対する思い、事業所の方針を職員と共有できるようにしている。日常生活の中で出来る事を探し、役割をみつけ、いきいきと笑顔が増えるよう努力している。	
			(外部評価) 「いつも笑顔で 生き生きと 自分らしく」という開設時からの理念を玄関や各ユニットに掲示されている。管理者は「職員の笑顔と利用者の笑顔が見られる事業所でありたい」と職員に話しておられ、職員は「朝から元気よく利用者に接して、利用者の笑顔が見られるよう取り組みたい」と話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域の行事にも参加している。清掃日にはホーム周辺の草引きを熱心に行う事が出来た。近所の散歩では柿畑で作業している方と話ができるのを楽しみに外出する利用者もいる。今年は自治会の班長も引き受け利用者と一緒に広報配布も行う予定。	
			(外部評価) 他事業所から紹介してもらい、フラダンスやカラオケのボランティアや幼稚園児のお遊戯等の訪問がある。クリスマス会・納涼祭・落語会には、地域の方も招待して一緒に楽しまれている。公民館の「朝顔展」には、事業所も出品されて「参加賞」をいただいた。世話役の方からは、世話のコツを教えていただき、事業所では、次回もチャレンジすることを計画されている。事業所は、25年度自治会の班長を引き受けられ、「地域の方とかかわる機会が増えるこの機会を活かして、関係を深めていきたい」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 利用者の作った雑巾やティッシュカバー等を保育園で使ってもらったり、入園式や卒業式の花飾りを作ってほしいと園からの依頼があったり利用者は役立つ事に生きがいを感じている。年に1回落語会を計画しているが地域の人にも案内をし一緒に楽しんでもらうようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 推進会議では毎回貴重な意見を頂いている。自治会への参加も推進会議でヒントを得て加入する事が出来た。家族代表の方が認知症について学んだ事を職員会に出席し伝えてもらうこともできた。</p> <p><b>(外部評価)</b> 会議時には、事業所から活動や利用者の状況等について報告を行ない、意見交換等がされている。会議メンバーより「事業所の入口が分かりにくい」という意見が出て、解決策を話し合っているところである。畑の野菜を安く売ることではできないかと相談したところ、メンバーからは「収穫量も少ないのでホームでおいしく食べてはどうか」という意見をいただいた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 市の担当者とは連絡を細めに取りよう心掛けている。分からない事は聞きながら行っているが、気持ち良く相談に乗ってもらっている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 市から、地震で津波警報が出た時には、丸山公園に避難するよう助言があった。ご家族のつながりから、地域包括支援センターの方の協力を得て、認知症についての研修を事業所で開催された。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 拘束は行わないという姿勢で取り組んでいるが、職員の少ない時間帯に玄関を施錠しなければならない状況があり検討を重ねている。自由に庭を散歩できるよう安全な環境チェックや日々の不穏防止に努めている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 転倒の心配がある場合には、ご家族と話し合っ、家具をクローゼットに片付けたり、鈴を付けたりして、危険因子を減らすようにされている。又、状態が落ち着くまで、ご家族に2～3日居室に泊まっていただくようなこともある。職員が、トイレ、入浴介助等で手薄になる時間帯は、玄関を施錠しておられる。以前、お一人でご自宅まで1時間ほどかけて歩いて帰られた方があり、それ以後、門扉は2ヶ所止めるようにされており、外側には鍵の開け方を掲示されている。</p>	<p>現在の門扉や玄関施錠の現状について、事業所で暮らす利用者の思いや、サービスを利用する側であるご家族の意見等もうかがってみてはどうだろうか。地域密着型サービスの意義も踏まえて、この機会に、利用者が安全で自由な暮らしができるような支援に向けた話し合い等をすすめていかれてほしい。</p>

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待についての研修参加は少なかった。行っている介護を振り返るよう意識づけをし、言葉による虐待、無視する虐待など無意識に虐待を行っていないか疑問を持つよう話している	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  成年後見制度を利用されている方はいないが、必要性がある時に充分活用が出来るよう、今後学ぶ機会を設けたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には時間が必要である事を前もって伝えておき十分な説明と家族、利用者の気持ち、要望等を聞くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  意見箱の設置はしているが意見が入っていた事はない為、面会時の面会用紙に家族の意見を記入してもらう欄を設けた。又面会の機会を利用し家族の方と十分にコミュニケーションを取れるよう職員間で話をしている。	
			(外部評価)  ご家族へは、2ヶ月毎に発行するホーム便りに、利用者個々の近況報告を添えて送付されている。クリスマス会・納涼祭・花見・外食・落語会開催時には、利用者と一緒に楽しめるよう案内されており、多くのご家族が参加されている。ご家族の来訪時に記入いただく「面会用紙」には、事前に職員がご家族に「用意してほしいもの」等の伝言を書くようにされている。又、「ホームに聞きたいこと」等を書けるような欄を設け、ご家族に記入していただけるよう声をかけておられる。現在ご家族は、大事なことは直接職員にお話されるようだ。ご家族が持って来られる利用者ご本人への飲食物は、過食やむせを防ぐため、事務所で預かり、居室で少しずつ召し上がっていただけるように支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議や申し送り等の時、職員の気付きや意見を聞いている。問題点や緊急のとり決めが必要な時は臨時の職員会議を開くなどをしている。1F、2Fの主任が各階それぞれの職員会議に出席し職員間の情報の共有や気付きが出来るよう工夫している。	
			(外部評価) 「利用者にもお祝いしてほしい」という職員の思いから、3月には、事業所で職員の結婚式が行なわれた。利用者は、ビデオレターでお祝いメッセージを贈られたり、オシャレして花束を渡す等して参加され、涙と笑顔に包まれた感動の結婚式となったようだ。職員会は、全員が発言するような仕組みを作り、意見を吸い上げておられ、又、職員アンケートを実施して本音を書いてもらい、通勤費や資格手当等の増額につながった。今年は、介護福祉士の資格取得に挑戦する職員も多いようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 施設長も一緒に勤務をしスタッフの勤務状況の把握に努めたり意見を聞き労働条件の改善に努めている職員のやりがいについては、研修の参加ができやすい勤務時間の調整をし、参加できるよう配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修は希望を優先し、各個人の必要と思われる研修には参加を勧めている。施設内研修については、もっと時間を作り研修を行う必要性を感じている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加し学んだ事を生かして業務改善に取り組んでいる。推進会議も相互に参加する事で、よい刺激を得る事ができている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学、面接時からの関わりを大切にしている。面接は管理者、主任と一緒にいき利用者及び家族とのコミュニケーションを十分にとれるよう努めている。入所時の不安等は職員で情報を共有しその人にあった対応の統一を計るよう話し合いながら支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の気持ちの理解に努め、心配な事や要望など聞いている。入所日には家族の方も一緒に食事をしてもらえるよう声掛けし、家族とのコミュニケーションも大切にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者や家族の困っている事、望んでいる事に目を向け、ケアプランに取り入れるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 最初は職員から掃除や食器洗い等お願いしていた事が、次第に利用者のやりがいにつながり利用者自らが進んで手伝ってもらえる環境、関係作りが出来ている。スタッフも手伝ってもらった時は「助かりました。ありがとう」と感謝の気持ちをきちんと表している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームの行事参加や面会時には家族と話をするよう心がけ、状況を伝え、気がついた事など要望も聞き、次回の面会を楽しみにしていると本人にかわり、伝えている。受診時には同行できない家族にはこまめに連絡をとっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所して仲良くなった利用者同士が交流し安心して過ごせる場の提供をしたり、美容院の予約、山歩きが好きな人には散歩に近所の山方面に外出したりと思い添って支援できるよう努めている。 (外部評価) 「写経したものを寺に納めたい」と希望される利用者や「自宅の様子が気なる」方には、職員が同行されている。最近では、百人一首・花札・かるた・四字熟語・ことわざ等をゲームにして採り入れておられ、昔を懐かしむような会話へとつながっていくようだ。お正月には、おせち料理を食べて、初詣に行き、カルタを楽しむ等して過ごされた。利用者が絵を描き溜めたものに、ご主人が文字を書き、絵日記のような文集を作成された。文集をみながら昔日を偲ばれるようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が一緒に行えるゴミ袋作りや洗濯物たたみ等をしたり、共通の話題の提供で会話や関わりが増えるように努めている。口論やトラブルになった場合もあるが、できるだけトラブル防止に努め、席替えや職員が中に入り調整をする事もある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設入所や入院となった方は面会に行き、その後の状況把握に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で楽しみとなっている事、自分の意志でされている事(散歩、手紙)等1人1人の思いを把握できるよう、気持ちを聞いたり家族からの情報も大切にしている。盆栽の手入れや畑の野菜の収穫など好きな事ができるように支援している。 (外部評価)	事業所では今後、職員が受けた「記録の書き方」についての外部研修時に得たアセスメント様式を採り入れ、利用者の思いや意向をさらに探っていきたいと考えておられた。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 最初の面接時の情報や家族からの聞きとりの重要性を感じている。又日々の入所後の暮らしから得られる情報、会話からの気付きや面会時に家族から教えてもらいながら、把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人1人のリズムに気をつけながら、リビングで皆と過ごす時間には楽しいレクリエーションの提供を心掛けている。体調に合わせて部屋で過ごしてもらうよう声かけする事もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人、家族を交えてのプラン作成は十分に行えてないが来所時のタイミングに合わせて話し合いが出来るようにしている。職員にはプランに目を通してもらい具体的ケア等、意見を聞きながら計画を立てている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、利用者のご家族の意向を踏まえ、主任が作成しておられ、「実現可能な目標」を立てるよう心がけておられる。支援経過1日分は、用紙の表裏に記録し、又、「ケア内容」と「反応」の項目を設け、モニタリングがしやすいように改善された。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の生活で出来る事、いつもと違った事などその都度話し合い、ケアマネ職員間で情報の共有を行いケアの実践につなげている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 既存のサービスに捉われないよう何が出来るかこれからの課題としたい。職員の結婚式を行い利用者さんにも一緒に祝福してもらえるように3月に予定している。公民館や集会所の利用や当ホームを利用時のサロンの交流等も検討していきたい。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近所の花屋、観葉植物園に散歩の途中見学させてもらえるよう話が出来て、散歩コースにして楽しませてもらっている。公民館の活動の朝顔展には出品し努力賞をもらい、次回の励みになっている。カラオケ、フラダンス、保育園児との交流、落語会、繭花展、柿畑の良心市など今後も色々な方の協力を得ながら支援したい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 病院受診時は状態の報告書を看護師が記入し受診時に持参している。本人、家族の希望に応じてかかりつけ医を受診している。パーキンソン病での薬のコントロールが重要な方も家族の協力を得ながら受診を続ける事が出来ている。	
			(外部評価) 協力医以外のかかりつけ医で診てもらう際には、ご家族が通院介助されるが、付き添うことが難しい場合は、職員が代わりに同行されている。職員が付き添う場合は、「基本情報」と「看護生活歴」の情報を持参するようになっている。月1回、協力医の往診があり、協力医とは、緊急時にも相談できるようになっている。歯科の協力医は、診療時間終了後に義歯の調整等に来てくださっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の関わりで変化や不安な事があれば報告、連絡、相談をし、適切な受診や看護をうける事が出来ている。朝の申し送り時は、看護師も出席して状態把握に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時に生活歴等要約を持参し情報交換を行っている。安心して入院生活ができるよう家族への連絡や病院関係者との関係作りにも協力し、面会にも再々足を運んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に重度化や終末期についての説明をきちんと行っている。看取りについても本人、家族に確認しているが状態の変化もある為、機会があるごとに確認を行っている。	
			(外部評価) 昨年は、1名の利用者の看取りを支援された。看取りが決まってからは、職員間でも体制作り等について話し合い、できる限りみなが集まる居間で過ごせるよう支援された。他の利用者は、様子をみに来られ、話しかけたり、絵本を読んで差し上げたり、やさしく接された。ご家族も最期の時を一緒に過ごされ、みなで見送られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 体調変化に早めに気付くよう日々の状態把握は十分に行っている。急変や事故があった時は、その都度、職員会で報告、対策を話している。定期的に訓練は行えていない為、あわてる事のないよう訓練を計画に入れる必要がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消火避難訓練を実施しているが、あわてる事のないよう状態の設定を色々変えて今後も訓練計画を立てる予定。 地域の協力体制については自治会や住民の方との関係作りが重要と考えている。今年自治会の班長を引き受け利用者と一緒に広報配り等役をする予定である。	災害の場面をいろいろ時間帯で想定して、避難訓練を重ねていかれてほしい。又、地域の防災訓練への参加や事業所の訓練に地域の方達の参加を呼びかける等して、協力体制作りをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 避難訓練時には、職員が利用者役になり、内階段を使って2階から毛布に包み、降ろす訓練を行なわれた。2階から降りることが困難な場合は、テラスに出て5分位で到着する消防車を待つことになっている。地震が発生して津波の危険がある場合は、丸山公園に車で向かうことに決めておられる。隣の方には協力をお願いされているが、地域の方との協力体制作りまでには至っていない。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 気持ちを受け止めるよう、否定せず受け入れる事を心掛けている。具体的な声の掛け方、対応について職員で話し合いながら行っている。	
			(外部評価) トイレ誘導の声かけには、特に気を付けるようにされており、職員は、利用者のそばで、他利用者に聞こえないように声をかけておられる。利用者のそばで申し送りを行うような時には、ジェスチャーを交える等、実名は出さないように配慮をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できやすい声掛けをするなど気をつけている。外出時の洋服選びや散歩レクリエーションなど職員本位にならないよう注意している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごす時間や他の利用者との談話の時間などを大切にしている。その時の希望に添いながら支援できるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 清潔、体温調整にも気を配っている。職員に美容師がいるのでこまめにカットをし喜んでもらっている。外出時は洋服の好みも聞きながら準備している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんから「手伝おうか」と声がかかる事が増えてきている。役割を持つことで生き生きとしてきた方もいる。一緒におやつ作りなどの計画を増やしていきたい。	
			(外部評価) いただいた大根で干し大根を作ったり、渋柿で干し柿を作ったりされている。食前に、体操や歌、早口言葉や笑いを採り入れて、嚥下がスムーズにできるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量、食事摂取量チェックをしない時は体調には十分気を配っている。水分をこまめに摂取できるよう声掛けやペットボトルにお茶を入れ、渡して飲んでもらっている人もある。なかなか水分を取らない方は汁物で補ったり、再々の声掛けやタイミングをみて飲んでもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には必ず口腔ケアを行っている。義歯の方も自分で磨いてもらい、介助のいる方も見守り声掛けで出来ることはしてもらうよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>尿漏れや不安のある方は紙パンツやパットの使用はしているが、早めの声掛け、誘導やパターンを知ることによってパット内の失禁が少なくなっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>おむつとつながりの寝衣で退院して来られた利用者は、トイレでの排泄を支援して、つながぎを中止し、昼間は紙パンツでトイレに誘導する等して、自立に向けて支援された。パッド等の汚れ具合等、排泄時の様子は細かく記録して、誘導の参考にされている。排泄用品は値段や好みもあるため、ご本人やご家族と相談して購入されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分、食事、運動など気をつけているが運動不足になりがちで便秘傾向の方がおり、服薬コントロールしている人もいる。タイミングをみてトイレ誘導する事で排便できる事もあり、日々の状態観察には気を配っている。薬のコントロール、便秘、下痢症状に注意して支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>声掛け時、気分が乗らない場合は時間をずらしてみたり、後日声掛けし入浴してもらうなど配慮している。風呂場、脱衣場の温度差にも気をつけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>午前・午後を選んでどちらでも入浴ができるように、湯温や浴室の温度等に気を付けて準備をされている。浴槽に浸かることが難しくなると、シャワーと足湯で対応されている。入浴前に血圧を測定し、ご本人が入りたくなければ、無理強いはない。湯あがりに使えるよう、脱衣所に化粧品を置いている方もいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>下肢のむくみのある人や眠気が強くリビングでウトウトしている方には声掛けし居室で休養してもらうように気配りをしている。起床もその人のリズムに合わせて行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更になった際は連絡ノートの活用や処方箋の確認を行い理解に努めている。服薬内容はチェックし服薬はきちんと飲む事を確認し間違いのないよう注意を払っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) なじみの遊び等を取り入れ利用者間の関係作りや気分転換で楽しく過ごせるよう工夫している。園児の訪問をとて楽しみにしており、幼稚園との交流ではふれ合いを大切にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩に行きたいと言った時、自由に歩けるスペース作りや、ドライブ、買い物など外出し気分転換や楽しみが持てるよう支援している。回転寿司やレストランなどにも行き選んで食べる楽しみも作っている。	
			(外部評価) おさかな館や農業公社へ野菜の苗を買いに行き、畑で育てたり、利用者によっては、月1回、おむつや備品を買いに行けるよう支援されている。毎日職員と一緒に散歩する方、又、外出する気にならないような方もおられ、それぞれに頻度等もご本人に合わせて外出する機会を作っておられる。外食や南楽園に行く時は、ご家族もお誘いしておられる。近所の花屋さんの裏の植物園は、いつでも見学させてもらえるようになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は事務所でやっているが、お年玉、お賽銭、お祭りのご祝儀など渡す楽しみも取り入れ支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族との電話に携帯電話を使用されている方もいる。電話をかけてほしいと頼まれて電話したり、手紙を書いたので郵便に出してほしいと頼まれる事もある。プライドを傷つけないよう字の誤りや住所等は横に手直しを加えて送らせてもらう事もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングポードには季節ごとの絵や飾り物を工夫して目を楽しむ事ができるようにしている。廊下横には笑顔いっぱいの写真を飾って、立ち止まり見てもらえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 窓からは、柿や梨等の果樹や花木等もよく見えて、季節を感じることができる。又、玄関やユニットには、管理者が持って来られたレンギョウ等の花を生けておられた。居間には、3つテーブルを置き、トラブルにならないよう、座席等にも気を付けておられる。玄関脇は、スリッパのまま出て過ごせるようになっており、気候の良い時期には、外のベンチ等で過ごされることも多い。庭のまくわ瓜の棚の下に椅子とテーブルを置いて、時々「青空喫茶」を行なっておられ、個々がお好きな飲み物を選んで楽しめるよう取り組まれている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングのソファの位置やテーブル等の配置はトラブル防止の為に慎重に行っている。自分の場所と決めている人もおり、不安にならないよう頻繁に変えたりせず気をつけて、席替えを行っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 仏様へお供えをしたり、座りなれた様子や思い出の写真、嬉しい物、懐かしい物を飾っている。金魚の好きな人は金魚を飼育、花や植物が好きな人は観葉植物を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価) 各居室にベッド・洗面台・クローゼットが備え付けられている。転倒の心配がある方には、ベッドのみで、ほかのものはクローゼットに収納されている。ご自分の部屋が分からなくなる方には、入口にぬいぐるみを下げて目印にされている。椅子に座って、ゆっくりとご家族が写っているアルバムを見るのを楽しみにしている方もおられる。毎朝、仏前にお茶と水・ご飯を供える方も、なるべくご自分でできるよう見守っておられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室でトイレ等に分かりやすく目印を工夫し迷わないようにしている。廊下の手すりは安全に移動できるよう使用したり歩行訓練し体力低下防止に役立っている。</p>	